

家族看護学	2年・後期	1単位	教授 石原 美由紀
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310952

1. 授業のねらい・概要

本科目は、家族を一つの単位とした看護援助を提供できる能力を身につけ、療養の場が施設、在宅にかかわらず、どのような看護の領域においても重要である家族について学ぶ。特に在宅看護では、家族は介護の担い手として重要な存在であり、在宅療養者同様、看護の対象として捉えていく必要がある。

本講義では、1単位としての家族全体を対象とした看護援助を実践できる看護者になるための基礎的な知識の習得と問題解決に向けた実践方法を学ぶ。

2. 到達目標

- 1) 家族の基本概念について理解する。
- 2) 現代家族の特徴を理解し、さまざまな家族問題と援助の必要性を理解する。
- 3) 家族看護の基本となる諸理論を理解する。
- 4) 事例を通して家族アセスメントの実際を理解する。
- 5) 家族看護過程の展開方法を理解する。

3. 授業の進め方

講義・グループワークを中心に行う。生活体験の未熟な学生が理解を深めていけるよう要所に事例等を提示しながらすすめる。

4. 授業計画

1. 家族看護学とは	6. 在宅家族看護過程の展開①（事例のアセスメント）
2. 家族看護の対象理解	7. 家族を含めた在宅看護過程の展開② （事例の関連図の作成方法）
3. 家族看護を支える理論と介入法	8. 家族を含めた在宅看護過程の展開③ （事例のまとめ）
4. 家族看護展開の方法	
5. 家族看護過程の実際（高齢者介護家族の事例を通して）	

5. 成績評価の方法・基準

試験70％，レポート20％，平常点10％を総合的に判断する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：上別府 圭子・井上 玲子・新井 陽子他（2019）：系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院

参考文献等：講義中、適宜資料配布する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

シラバスの授業計画の範囲について最低1時間以上の予習及び授業内容について1時間以上の復習を行うこと。

8. 受講上の留意事項

家族看護学を学ぶことで、患者・在宅療養者の家族に対しての関わりだけでなく、自分自身の家族を見つめなおす機会にもなるといいます。ぜひ興味、関心を持って受講して下さい。

9. 課題に対するフィードバックフィードバック方法

提出された課題は教員が内容をチェックして返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

試験の結果と模範解答は後日掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、習得できない場合進級不可となる。